

H30年度研究主題

学び合いの工夫を図ることで、表現しようとする意欲と表現する力を高める学習指導法の研究（3年次）

1 これまでの研究と本年度の課題

以前の深町小学校主題

単元の目標に迫り学ぶ意欲を高める算数科学習指導法の研究

自分の考えを表現し学びあう場面と学んだことを生かす場面の工夫を通して

(1) 自分の考えを表現し学び合う場面の工夫【着眼1】

- ① 自分の考えを表現するための工夫 「見通し」と「思考の手順」
- ② 発問と学び合いの仕方の工夫 「本時の数理 黄色いキーワード見つけ」

(2) 学んだことを生かす場面の工夫【着眼2】

- ① 学んだことをためす場面の工夫 「個人思考を生かした適用問題・練習問題」
- ② 学んだことをふり返る場面の工夫 「児童の言葉を生かしたまとめ・ふり返り」

本年度に向けた重点目標

児童の表現する力を高めていく。☆ 児童同士が高めあっていくような

本校の児童の実態

- ノート指導の継続により、書く力が育ってきている。
- 計算する力に比べて、説明する力・考えを書く力が低い。
- 領域においては、学んだことが継続して身につかない。定着しない。
- 各学年ばらつきはあるが、平均的に数学的な考え方が低い傾向がある。

昨年の主題推進委員会の中で出たキーワード

アクティブラーニング わかる・楽しい 言葉のラリー
表現する力 書く力 定着 説明 etc

(1) ノートに自分の考えを表現させるための手立て【着眼1】

着眼1「ノートに自分の考えを表現させるための手立て」に沿った活動のあり方を以下のように講じる。

① 既習内容の確実な習得を図る指導の工夫

既習内容・表現方法を学び直して習得しておくことが、自分の考えの表現につながる。プレテストで実態を把握し、必要な既習内容・表現方法の習得を図るための時間を指導計画に適切に位置づける。

② 活動の見通しを持たせた上での表現を結ぶための工夫

自分の考えをもつためには、活動の見通しを持たせた上での具体的操作・作図等の算数的な活動が必要である。それらの活動の手順「思考の手順」を示すことで適切に算数ノートに表現できるようにする。

(2) ノートを活用して話し合わせるための手立て【着眼2】

着眼2「ノートを活用して話し合わせるための手立て」に沿った活動のあり方を以下のように講じる。

① ノートで比べ合い、見直しができるための「みんなで学ぶ」学び方のモデルの活用

自分の考えを算数ノートに表現した後、すぐに話し合いをすると、自分の考えが曖昧になったり、多様な考えと比べあうことができなかつたりする場合が多い。そこで、まず近くの友達と表現し合う活動を仕組む。次に、友達の考えとの共通点・相違点について気付いたことを自分のノートに書き足すような見直しタイムをとる。

② ノートの考えから、本時のねらいに合った考えへと導くための教師の働きかけのあり方

取り上げる考え、発問の工夫、キーワードの発見、まとめる活動において、教師がどのような働きかけをするかを整理する。そして、実際の授業場面では、それに対する児童の反応を検証していく。

本研究では、以下の資料を活用して客観的に分析し研究の有効性を検証する。

- ・児童が考えを記した物の内容、話し合い活動での発言内容
- ・各時間週末で行う練習問題の解答状況、単元学習後に行う評価テスト
- ・ふり返りカードの記述内容
- ・家庭学習ノートや教室内外の環境における学習後の児童の様子

これらは、次時の授業や研究のまとめに生かしていきます。

※ 授業日については別途提案（児玉先生）

(3) 指導案の形式について

A4サイズ1枚、 板書指導案形式（5月2日に提案）

(9) 研究組織

【主題推進委員会】

校長、教頭、主題推進委員長（児玉）・研究主任（迫川）

- ①校長・教頭・・・校内研究の総括及び指導・助言
- ②研究主任　　・・・研究内容の提案，研究実践への助言，研究の成果と課題の集約，次年度の
研究の方向性を提案
- ③主題推進委員長・・・主題研究の具体的推進（主題研修会の設定，講師招聘，必要書類作成等推
進に関わる業務全般
- ④研究部員および分担

研究組織分担	メンバー	主な仕事内容
実態調査	迫川　堀尾　沖田 谷崎　麻生　外柙保	・実態調査(ミニ評価) <u>本年度は各時間ごとの振り返りを入れる。</u> (調査表の提案や配布、評価) ・CRT等の分析(本校児童の傾向の把握)
家庭学習	児玉　溝口　木下 瀧口　三好	・家庭学習の準備および啓発 (深町ホールのプリント棚の用意 宿題の内容や学習の仕方等)
書く・話し合い	西山　安達　内山　吉竹 (迫川)	・学習環境(教室や廊下等の掲示内容の 提案、補助) ・書く指導(板書やノート指導の提案) ・話し合い指導(学び合う児童の育成に向け た提案)

式のよみ方



共通し

- ① 図の表と裏を使った. 式に表す.
- ② 図と式を比べた方が. 理由を説明する.

図の表と裏を使った.
その式になる理由を説明しよう

のあと

⑦

① だいたいお金の表と裏

表と裏 → 4個ずつ

式 → 4×5

理由 → 4個の表と裏に分けたから.

② 思いつきの
1. 1個の表と裏
2. 2個の表と裏
3. 3個の表と裏

⑧

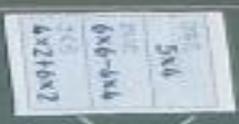
① 表と裏 → 5個ずつ

式 → 5×4

理由 → 5個の表と裏に分けたから.



- ⑨ $100 \times 6 \rightarrow 100 \times 6$ の分
- ⑩ $100 + 600 \rightarrow 100 + 600$ の分



⑪

① 表と裏 → 4個ずつと6個ずつ

式 → $4 \times 2 + 6 \times 2$

理由 → 4個の表と裏2つ分と6個の表と裏2つ分



⑫

① 表と裏 → 4個ずつ

式 → $6 \times 6 - 4 \times 4$

理由 → 1辺6個の正方形から4個の表と裏(緑)4つ分を引くから.

ふり返し



表と裏をよく見ると、どのよう表すか表されるかの理由を説明できる。

まとめ